

令和8年度技術士第二次試験問題〔環境部門〕

19－1 環境保全計画【選択科目Ⅱ】

Ⅱ 次の2問題（Ⅱ－1，Ⅱ－2）について解答せよ。（問題ごとに答案用紙を替えること。）

Ⅱ－1 次の4設問（Ⅱ－1－1～Ⅱ－1－4）のうち1設問を選び解答せよ。（緑色の答案用紙に解答設問番号を明記し，答案用紙1枚にまとめよ。）

Ⅱ－1－1 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく産業廃棄物に係る陸上の最終処分場の3類型を挙げ，その構造及び管理の特徴を説明するとともに，それぞれの類型での処分が想定される廃棄物の種類を述べよ。

Ⅱ－1－2 TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）の概要及び現在の進捗と課題について述べよ。

Ⅱ－1－3 カーボンフットプリント（CFP）の概要を説明するとともに，民間企業の立場から，その活用方法と課題について述べよ。

Ⅱ－1－4 2026年1月30日に告示された光化学オキシダントに係る新たな大気環境基準について，改正が行われた背景，改正後の基準の概要及び達成の評価方法について述べよ。

Ⅱ－２ 次の２設問（Ⅱ－２－１，Ⅱ－２－２）のうち１設問を選び解答せよ。（青色の答案用紙に解答設問番号を明記し，答案用紙２枚を用いてまとめよ。）

Ⅱ－２－１ 石綿（アスベスト）の繊維は極めて微細で，吸入すると肺に蓄積し，中皮腫や肺がんなど重大な疾病を引き起こすため，建築物等の解体工事では，過去に使用された石綿が飛散し，作業員や周辺住民の健康被害を引き起こす危険性がある。また，石綿を使用している民間建築物の耐用年数から推計して，解体棟数は2030年代にピークを迎えるといわれており，大気汚染防止法，石綿障害予防規則をはじめとする関係法令の改正等により，順次規制の強化が図られ，令和８年２月には，「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」も改正されている。

あなたは，老朽化したビルの解体工事を受注した業者の担当責任者となったとして，石綿飛散防止対策を図りつつ，ビルの解体工事を進めるに当たり，下記の内容について記述せよ。

- (１) ビルの解体工事を行うに当たって，石綿飛散防止の観点から，解体に先立ち調査，検討すべき事項とその内容について説明せよ。
- (２) ビル解体時の石綿の除去の手順を列挙し，作業において留意すべき点，工夫を要する点を述べよ。
- (３) 業務を効率的，効果的に進めるための関係者との調整方策について述べよ。

Ⅱ－２－２ 里海（さとうみ）は，人の暮らしと自然の営みがともにある海辺のことを指し，古くから水産・流通をはじめ，文化と交流を支えてきた重要な場所であり，この里海の保全・創生を目指した里海づくりの取組が全国的に進められている。

あなたは，ある自治体からの依頼により，里海づくりの計画策定を支援する業務の担当者となったとして，以下の内容について述べよ。

- (１) 里海の特徴を述べたうえで，里海づくりの計画策定に当たって，調査，検討すべき事項とその内容を述べよ。
- (２) 業務を進める手順と，その際に留意すべき点，工夫を要する点を述べよ。
- (３) 業務を効果的，効率的に進めるための関係者との調整方策について述べよ。

19－1 環境保全計画【選択科目Ⅲ】

Ⅲ 次の2問題（Ⅲ－1，Ⅲ－2）のうち1問題を選び解答せよ。（赤色の答案用紙に解答問題番号を明記し，答案用紙3枚を用いてまとめよ。）

Ⅲ－1 気候変動により，日本の湖沼の環境にも様々な影響が出ており，また科学的研究から今後も影響が出ることが予測されている。今後の湖沼の環境の保全は，この観点での対策についても対処していくことが必要となってきた。

- （1）我が国の湖沼（淡水湖，ただしダム等の人造湖以外）においては，気候変動による水温の上昇に起因して，あるいは気候変動に起因する別のメカニズムにより，どのような水質に関係した要素の変化が予測され，あるいはどのような生物種・生物相の変化が予測されるか，様々な湖沼において共通して顕れる可能性のあるものの代表例を3つ示せ。また，これらの変化のうち環境保全上問題となるものを可能な限り食い止めるに当たって，多面的な観点から，環境保全計画科目に関わる技術課題（本小問においては，気候変動の適応策に限る）を3つ抽出し，観点を明記したうえで，それぞれの技術課題の内容を示せ。
- （2）前問（1）で抽出した技術課題のうち最も重要と考える技術課題を1つ挙げ，その技術課題に対する，複数の解決策を，専門技術用語を交えて示せ。
- （3）前問（2）で示した解決策に関連して新たに浮かび上がってくる将来的な懸念事項とそれへの対策について，専門技術を踏まえたうえで考えを示せ。

Ⅲ－２ 令和２年10月に開催された臨時国会で内閣総理大臣が「2050年カーボンニュートラル」を目指すことを宣言し、同宣言に基づき、令和３年６月に「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略（以下、グリーン成長戦略という）」が策定された。同戦略では、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、今後、産業政策・エネルギー政策の両面から、成長が期待される14の重要分野について実行計画を策定し、可能な限り具体的な見通しが示されている。

グリーン成長戦略に関し、以下の問いに答えよ。

- (1) 「2050年カーボンニュートラル」について、その意味を説明するとともに、「グリーン成長戦略」で選定された14の重点分野の中からエネルギー関連産業、輸送・製造関連産業に関連する分野を１つ選定し、多面的な観点から、技術課題を３つ抽出し、観点の明記とともに、その内容を示せ。
- (2) 前問（１）で抽出した技術課題のうち最も重要と考える技術課題を１つ挙げ、これを最も重要とした理由を述べよ。その技術課題に対する複数の解決策を、専門技術用語を交えて示せ。
- (3) 前問（２）で示した取組を実行しても新たに浮かび上がってくる将来的な懸念事項とそれへの対策について、専門技術を踏まえた考えを示せ。